

強者の戦略

こんにちは。日本史の岡上です。「東大日本史のみかた」も9年目に入りました。今年も東大の入試問題を題材にお話をしていきたいと思っています。

さて、1週間ほど時間がありました。どのような解答が仕上がったのでしょうか？今回取り上げた東大日本史の第1問は古代からの出題で「律令国家による東北地方の支配」をテーマにした問題でした。

古代の東北といえば「蝦夷の征討」、「多賀城の設置」、「征夷大將軍坂上田村麻呂」など用語は次々と思いつく分野かもしれませんが、今回問われたのは、その東北地方の支配の意味や影響でありました。設問の意図をしっかりと受け止めて解答を作成できたでしょうか。

それでは解説を始めていきましょう。

<律令国家による東北地方の支配の意味>

A 東北地方の支配は、律令国家にとってどのような意味を持ったか。2行以内で述べなさい。

設問Aでは、「東北地方の支配」が「律令国家にとってどのような意味を持ったか」が問われています。まずは律令国家が東北地方の支配を進めていく様子が書かれている資料文を確認してみましょう。

(1) 東アジアの国際関係の変動の中で、日本列島では律令国家による国土の拡張が進められた。東北地方への進出では、7世紀に淳足柵・磐舟柵、ついで太平洋側にも城柵を設置し、8世紀には出羽国を建て、多賀城を置いて支配を広げた。

資料文(1)では「律令国家による国土の拡張」が具体的に示されています。ここでみなさんの中には、

645年 乙巳の変・・・大化改新のはじまり

646年 改新の詔・・・王族中心の中央集権の政策方針が示される

647年 淳足柵設置

648年 磐舟柵設置

という一年毎の動きを確認した人も多くいると思います。つまり、**淳足柵・磐舟柵の設置に始まる東北地方の支配が、王族中心の中央集権化の改革の一環として進められていった**ことを想起することができます。

(3) 律令制支配が東北へ伸張した結果、8世紀後期から9世紀初期の30数年間、政府と蝦夷勢力との武力衝突が相次いだ。支配がさらに北へ広がる一方、桓武天皇は負担が国力の限界に達したとして、蝦夷の軍事的征討の停止に政策を転じた。

強者の戦略

資料文(3)では「律令制支配が東北へ伸張」するなか、「政府と蝦夷勢力との武力衝突が相次いだ」とあり、それが桓武天皇の時代(=9世紀初頭)まで続いたことが示されています。つまり、**律令国家がその支配に従わない人々を「蝦夷」といった蕃夷とみなすことで、自らを天皇中心の帝国であるとしていたことを読み取ることができます。**ここまでをまとめると、

【解答例】

律令国家にとって東北地方の支配は領域の拡大と、蝦夷などの蕃夷を従える天皇中心の帝国であることを示す意味を持った。(56字)

という解答が出来上がります。…ただ、この解答で設問の要求を満たしているのでしょうか。書いた内容の割には、少し冗長な感じもしますよね。この設問、他にも律令国家による東北地方の支配の意味はないのかと考えてみる必要があります。

さて、ここで注目したいのは資料文(1)の冒頭にある、「東アジアの国際関係の変動の中で」という表現です。この表現は、「律令国家による東北地方の支配」が「東アジアの国際関係の変動」と「連動」していたことを示唆していますよね。このあたり、解答に反映させる必要があるのではないのでしょうか。

ここで、7世紀から9世紀初頭にかけて、東アジアの国際関係がどのように変動していったのか、簡単にまとめてみましょう。

〔7世紀〕

663年に白村江の戦いが起こるなど、唐・朝鮮半島諸国・日本(倭国)の関係が緊迫化。

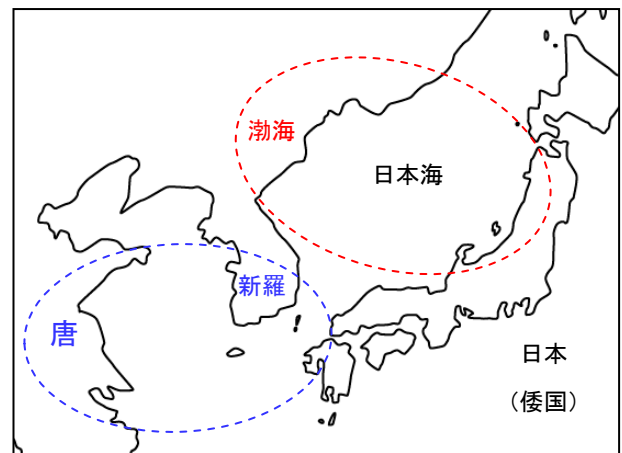
〔8世紀〕

唐と朝鮮半島を統一した新羅が対立。また、唐と対立した渤海が日本に使節を派遣(渤海使)。

〔9世紀初頭〕

安史の乱以降、唐が衰退。

このようにみると、**7世紀から9世紀初頭にかけての東アジアの国際情勢は唐を中心としながらも、朝鮮半島諸国、日本(倭国)、そして渤海が協調と対立を繰り返す、目まぐるしい変動をしている**ことが分かります。そして、この目まぐるしい変動のなかで律令国家は東北地方の支配を進めていったのです。つまりここでは、日本における東北地方ではなく、東アジアにおける東北地方の意味を考えなければなりません。



律令国家にとって唐や朝鮮半島諸国などの大陸との通交は政治的・文化的に欠かせないものでした。そして、その通交は九州(大宰府)を中心に行われました。しかし、7世紀から9世紀初頭にかけて、その重要な大陸との通交は、常に安定していたというわけではありませんでした。そのため、律令国家としては九州(大宰府)以外の大陸とのルート、つまり**日本海を挟んだ東北地方とのルートも模索していた**と考えることができます。7世紀に淳足柵・磐舟柵が「日本海」側に設置され、また8世紀には「日本海」側の出羽国が設置されたこと、また8世紀から始まる渤海使が「日本海」を通じ、松原客院・能登客院などに到来したことは、**律令国家が唐を中心に展開される国際関係への対応として、東北地方の支配を進めていった**と考えることができます。

また資料文(4)から読み取れることもあります。

強者の戦略

(4) 金(砂金)や、昆布等の海産物、優秀な馬といった東北地方の物産に対する貴族らの関心は高かった。また、陸奥国と本州の太平洋に面した諸国の人々の間には、海上交通で結ばれた往来・交流も存在した。

資料文(4)では、東北地方が「金(砂金)」「昆布等の海産物」「優秀な馬」などの物産を産出する地方であることが示され、また「陸奥国と本州の太平洋に面した諸国の人々の間には、海上交通で結ばれた往来・交流も存在した」という表現から、律令国家の時期において活発なヒト・モノの「往来・交流」が行われていたことが分かります。**律令国家が進展していく中で、東北地方の物産への関心の高まりや、それに伴う往来・交流の活発化が見られた。**このあたりも解答に反映させてもよいのかもしれませんが、指定文字数には限りがありますので、取捨選択をして解答を作成する必要はありそうです。

以上をまとめて、解答を作成してみましょう。

【解答例】

A 東北地方の支配は、唐を中心に展開される国際関係への対応と、蕃夷を従える天皇中心の帝国であることを示すという意味を持った。(60字)

<東北地方に関する諸政策の影響>

設問

B 7世紀半ばから9世紀に、東北地方に関する諸政策は国家と社会にどのような影響を与えたか。その後の平安時代の展開にも触れながら、4行以内で述べなさい。

続いて設問Bでは、「7世紀半ばから9世紀」において「東北地方に関する諸政策」が国家と社会に与えた影響が問われています。「その後の平安時代の展開にも触れながら」という条件も見落としてはいけません。まずは資料文のなかから、7世紀半ばから9世紀における東北地方に関する諸政策を抜き出してみます。

資料文(1)より

- ・7世紀に淳足柵・磐舟柵、ついで太平洋側にも城柵が設置された
- ・8世紀には出羽国を建て、多賀城を置いて支配を広げた

資料文(3)より

- ・8世紀後期から9世紀初期の30数年間、政府と蝦夷勢力との武力衝突が相次いだ
- ・支配がさらに北へ広がった

上記より7世紀から9世紀にかけて、政府は蝦夷勢力との武力衝突を起こしながらも、日本海側のみならず太平洋側にも進出し、支配を北へと広げていった、とまとめることができます。

次に国家と社会に与えた影響に関しては、資料文(2)(3)に指摘されています。

強者の戦略

(2) 律令国家が東北支配の諸政策を進める中、東国は度重なる軍事動員や農民の東北への移住などで大きな影響を受け続けた。他の諸国にも大量の武具製作や帰順した蝦夷の移住受入れなどが課され、東北政策の社会的影響は全国に及んだ。

(3) 律令制支配が東北へ伸張した結果、8世紀後期から9世紀初期の30数年間、政府と蝦夷勢力との武力衝突が相次いだ。支配がさらに北へ広がる一方、桓武天皇は負担が国力の限界に達したとして、蝦夷の軍事的征討の停止に政策を転じた。

資料文(2)の前半には「東国は度重なる軍事動員や農民の東北への移住などで大きな影響を受け続けた」とあり、資料文(3)の「桓武天皇が負担が国力の限界に達したとして、蝦夷の軍事的征討の停止に政策を転じた」という表現とあわせて考えれば、**東北支配の諸政策によって東国の農民が疲弊していったことが読み取れます**。また資料文(2)の後半の「他の諸国にも大量の武具製作や帰順した蝦夷の移住受入れなどが課され、東北政策の社会的影響は全国に及んだ」という表現からは、**東北支配の諸政策の影響は東国にとどまらず全国に広がり、国力を大いに低下させたことが読み取れます**。

つまり、**律令国家の支配領域が拡大する一方で、律令国家における人民の負担は増大し、国力の低下を招くという背反した状況が進行していることが分かります**。

では、次に条件となる「その後の平安時代の展開」について考えていきましょう。

(4) 金(砂金)や、昆布等の海産物、優秀な馬といった東北地方の物産に対する貴族らの関心は高かった。また、陸奥国と本州の太平洋に面した諸国の人々の間には、海上交通で結ばれた往来・交流も存在した。

(5) 鎮守府の将軍など、東北を鎮めるための軍事的官職は、平安時代を通じて存続し、社会的な意味を持ち続けた。平貞盛、藤原秀郷、源頼信・義家らは、本人や近親がそうした官職に就くことで、武士団の棟梁としての力を築いた。

資料文(4)からは、**平安時代の貴族らにとって東北地方の物産に対する関心は高かったこと**、またその関心を満たすように**太平洋側を中心に海上交通が発達したことが読み取れます**。

また資料文(5)からは、平貞盛、藤原秀郷、源頼信・義家といった軍事貴族が、鎮守府の将軍といった**東北支配のための軍事的官職を基盤として、武士団の棟梁として成長していったこと**を読み取ることができます。

ちなみに資料文(2)にある「他の諸国にも大量の武具製作や～」という表現からは、当時の在地社会において武具の製作を通じて軍事力が高められていったこと、また資料文(4)の「優秀な馬」はおそらく軍馬として用いられたと考えられ、当時の軍事貴族の成長にとって東北地方の物産も役立っていたことが分かります。

では、以上をまとめて解答を作成してみましょう。

【解答例】

B 律令国家の支配領域が拡大したが、人民の負担は増大し、国力の低下を招いた。一方で、貴族の東北の物産への関心は高まり、太平洋側を中心に海上交通が発達した。軍事貴族は東北支配のための軍事的官職を基盤として、在地の武士団の棟梁として成長していった。(120字)

さて、みなさんの解答はいかがだったでしょうか？

論述問題の解答はもちろん一つではありませんので、「これはどうだろうか？」と自分では判断つかな

強者の戦略

いものは必ず、添削してもらおうことをお勧めします。
この『強者の戦略ホームページ』でもメールにて質問などを受け付けていますので、どしどし送ってきてくださいね。

それでは、今回はこの辺にいたしましょう。次回「東大日本史のみかた」をお楽しみに！！